

栄冠は君に輝く

今年もまた、心燃え立つ高校野球の季節が到来しました。

甲子園球場で、8月8日から始まる夏の大会に向けて、道内でも予選が行われ、北北海道大会は旭川工業高校、南北海道大会は札幌第一高校がそれぞれ優勝し、北海道の代表に決まりました。

北北海道代表の旭川工業高校は、エース官野投手の力投と堅い守備によって激戦を勝ち抜いてきました。特に、官野投手は、46回投げて失点はわずかに5点といたしますから、素晴らしいですね。本番の甲子園での力投を、期待しています。

南北海道代表の札幌第一高校は、粘りの野球をモットーに、機動力と継投策で強豪を破ってきました。

旭川工業高校は7年ぶり5度目、札幌第一高校は3年ぶり3度目の甲子園出場となります。初戦突破を目指して、全員野球で頑張りたいと思います。

今、全国各地で、続々と甲子園夏の大会に向けて代表校が名乗りを上げていますが、今年の地方大会（福島大会）で、昨年の東日本大震災の被災地から合同チームが参加して話題を呼びました。

このチームの名前は「相双福島」といい、双葉高校、原町高校、相馬農業高校の3校による連合チームです。これらの学校は、いずれも福島第一原発事故で被災し、部員の転校などでチーム編成が困難となり、昨年の8月に結成したものです。なかなか3校合同の練習は出来なかったそうですが、それでもチームとしての力は強く、今一步のところまで相手チームを追い詰めながら力尽きたというところでした。勝つチャンスがあっただけに、選手たちは号泣しながら抱き合ったそうですが、青春の涙は最高ですね。

連合チームを率いた双葉高校の田中監督は、試合後のミーティングで「本当にいいチームだった。最高の夏でした。長い夏をありがとう」と優しく語りかけたとのことですが、選手や監督はもとより、彼らを応援した沢山の人間にとっても、記憶に残る夏となったことでしょう。

「夏といえば甲子園」という程、高校野球夏の大会は、今や夏には欠かせな

いー大イベントです。野球ファンもそうでない人も、全国の人達を引きつける
高校野球の魅力って何なのでしょうね。

何ととっても、最後まで諦めない粘り、その球児達のひた向きさに、観客は
しびれるのではないのでしょうか。まさに、

若人よ いざ

まなじりは 歓呼に答え

いさぎよし 微笑む希望

(「栄冠は君に輝く」から)

ですよ。一球ごとに選手たちは躍動し、応援スタンドは熱気で揺れます。

プロ野球では、今日は負けても明日があるかも知れませんが、高校野球はそ
うはいきません。負けたら、それで終わりです。ですから、選手たちは、最後
の最後まで、必死に食らいつく、それこそ青春のエネルギーの凝縮です。

勝負である以上、勝者がいれば敗者がいます。勝者は、勝利に歓喜し、敗者
は、敗戦の悔しさに涙します。私などは何時も、大きな体をした高校生が臆面
もなく涙する姿に、若いっていいなあと思ってしまいます。

そんな彼らにこそ、「栄冠は、君に輝く」という言葉を贈りたいと思います。

勝者にとっても敗者にとっても、仲間と共に同じ夢に向かってひたすら汗を
流してきた日々の重さと輝きは、何ら変わりありません。

甲子園という晴れ舞台に立った選手の皆さんには、全力を出し切って戦う事
を期待しています。何故なら、選手の皆さんのひた向きに努力するその姿は、
眩しくかけがえのないものであり、多くの人に勇気と感動を与えて来たからで
す。

今年の夏の甲子園、どんな戦いが繰り広げられるのか今から楽しみです。

旭川工業高校 札幌第一高校 ガンバレ！！

(塾頭 吉田 洋一)